



マンガ家 美内すずえ

美内すずえ—みうち・すずえ
昭和26年大阪府生まれ。43年大阪成蹊女子高校在学中にマンガ家デビュー。いくつもの人気作品を生み出す。代表作『ガラスの仮面』は50年から連載がスタートし、休載を挟んでいまなお物語が継続している演劇大河ロマン。単行本は42巻(平成20年5月現在)、幾度となく舞台・テレビ化される人気作品。

村上和雄—むらかみ・かずお
昭和11年奈良県生まれ。38年京都大学大学院博士課程修了。53年筑波大学教授就任。遺伝子工学で世界をリードする第一人者。平成11年より現職。著書に『心の力』(共著・致知出版社)など多数。

少女マンガ界の金字塔 『ガラスの仮面』

美内 どうもお久しぶりです。村上先生と初めてお会いしたのは二〇〇〇年だったでしょうか。『地球交響曲』を撮られた龍村仁さんの司会で、「二十一世紀を語る」というような講演会がありました。私も先生も講師の一人でした。会場で先生のお話をお聞きして、「面白い、この先生は面白い！」と(笑)。村上 どこが面白かったですか？美内 発想や考え方というか、科学者なのにミッドナイトサイエンスの要素が見え隠れして、私のほうから興味を持ったのがそもそもご縁の始まりです。

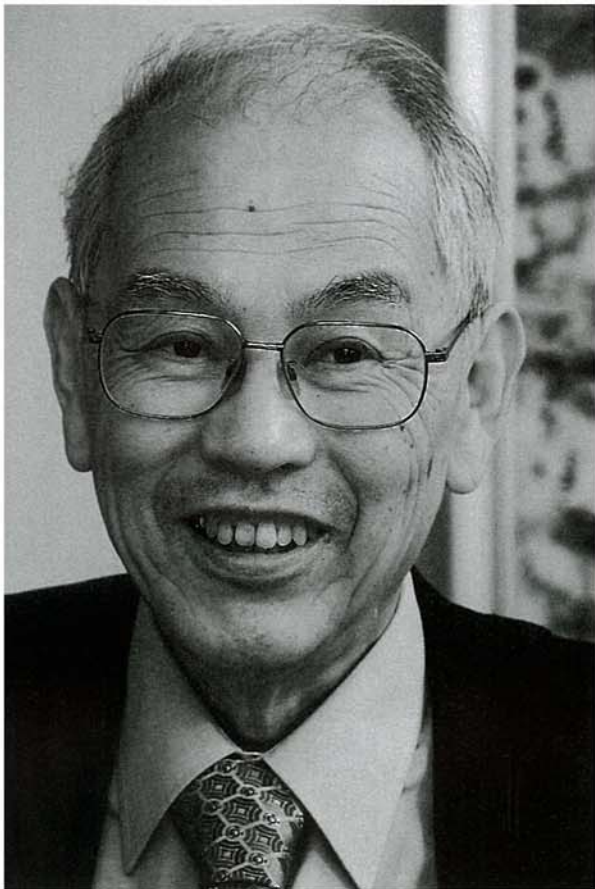
その後、NHKの番組で私が気になる人と対談をするコーナーを持たせていただいて、その時にも村上先生に来ていただきましたね。村上 我々の世代はマンガを読む奴は不良だといわれていましたから、自慢じゃないけど僕はマンガは一切読んだことがない。まして少女マンガには触れたこともない(笑)。だから美内さんが何者かはまったく知らなかったのですが、聞け

自我を超え、真我の
パワーでつくられた
『ガラスの仮面』

日本はいま、大きな転換期に差し掛かっている。強きもののみが生き残る世界から共生の世界へ、目に見えるものだけの世界観から精神的な世界観へ――。

今回は、刊行年数三十年以上、売り上げ総部数五千万部、日本少女マンガ界に金字塔を打ち立てた『ガラスの仮面』の作者・美内すずえさんをお迎えし、村上和雄氏と自我を超えた真我の世界について話し合っていた。

筑波大学名誉教授 村上和雄



ば少女マンガ界では教祖のような存在だと。そして代表作の『ガラスの仮面』という作品は三十年以上刊行していて、いまだ終結していないというじゃないですか。美内 いま四十三巻目の続きを描いているところですね。この前、イタリアからメールでファンレターが来まして、英語だったのでかろうじて単語を拾い読みしたら、「自分は七十五歳だが、死ぬまでには完結してほしい」とありました。「長生きしてくださいね」ってパソコンをなでなでしたんですけど(笑)。

村上 海外でも出版されているなら、売り上げ総部数もかなりなものでしょう。美内 海外のほうは分かりませんが、国内では少なくとも五千万部は出ていると思います。

村上 五千万部！ 僕らの単行本の常識では考えられないですね。なぜ『ガラスの仮面』という作品がこれほど長く、そしてそれほど多くの人に読まれるのか。今回はその秘密を美内さんから盗もうと思って対談をお願いしたんです。おそらく僕と一緒に、『致知』の読者は『ガラスの仮面』を知らな

い人が多いはずだから、まずはあらすじをお話しいただけますか。美内 簡単にご説明しますと、女優を目指す女の子の成長物語です。主人公の北島マヤは学校の勉強もできないし、親の言うことも聞かないし、美人でもないし、何の取り柄もないんだけど、お芝居がすごく好きで、ある時学校の演劇を通して自分の才能に目覚め、生きる情熱を発見するんです。そんな彼女の才能を見出すのが、往年の大女優・月影千草です。月影は戦後に『紅天女』という舞台で大ヒットを飛ばしていたのですが、舞台のライトが落ちてきて顔に傷を負い、舞台から姿を消してしまふ。しかし、密かに『紅天女』を受け継いでくれる女優を探していたんです。そして北島マヤに出会うわけですよ。

ほかにライバルの天才少女がいたり、マヤをずっと見守るあしながおじさんのような青年がいたり、少女マンガの面白いところを全部入れているような感じですね。村上 しかし、よく四十巻まで続きますね。そんなに続いているマンガは他にないでしょう。